

緑化だより

No.148 平成31年4月号



セイヨウバクチノキ

- 季節の花(タチツボスミレ)
- 昆虫の話(花から花への仕事人)
- 小さな世界こけ(身近なコケ(3))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

季節の花

タチツボスミレ

「山吹きの 咲きたる野辺のつほすみれ この春の雨に 盛りなりけり」

高田女王(たかたのおほきみ) 万葉集8巻:1444

これを訳しますと

(山吹が咲いている野辺、つほすみれも負けじと一面に咲いています。

この春の雨の中に早く咲け、早く咲けと促されたのでしょうか)

作者は大伴旅人と親しかった高安王の娘です。

スミレは万葉集では「ツホスミ」と清音で詠われていましたが、平安時代から「ツボスミレ」と濁音となりました。このスミレは現在のタチツボスミレのことで「立坪」です。「立」は花の盛りを過ぎると、しだいに茎が立ち上がることからです。「坪」は「庭」の意味で身近なところに咲くからでしょう。

スミレの語源は牧野富太郎博士によると、横から見た花の形が、大陸より輸入されてきた大工道具で線を引くの使う墨入れ(墨壺)に似ているからと言われています。

スミレといえば日本では春を告げる野草の代表です。スミレ属は日本に50種類ほど自生しています。細かく分けると、亜種・変種は100を超えます。

果実は熟したら3裂してはじけて、種子が飛び出します。種子の根元にはエライオゾーム(種枕)と呼ばれる独特な構造があり、アリの好きな匂いを出します。アリはこの匂いに誘われて、自分の巣穴に種子を運び込みます。翌年の春、スミレが思いがけない所に生えていたらアリの仕業です。これはスミレの戦略で、種の保存、つまりは生き残り作戦です。

スミレ属は古くから食用として、おひたしや、ご飯に混ぜて食べていました。また、できもの、腫物の薬として利用されていました。スミレ属の植物は山野でごく自然に見られ、どんな環境下でも生えて、我々の目に触れることが多い、たくましく、かわいらしい姿の春の代表です。(上村)



タチツボスミレ

昆虫の話

花から花への仕事人

暖かくなり、野山に様々な花が咲き始めると、いろいろな昆虫たちが蜜や花粉を求めて飛び回る姿を見ることができます。その中でも特に働きものなのが花から花へと蜜を集めてまわるミツバチです。

彼らは一匹の女王蜂と多数の働き蜂からなる集団で生活する、社会性の昆虫です。女王蜂は卵を産み働き蜂の数を増やし、働き蜂は巣の掃除や増築、幼虫や女王蜂の世話、餌となる蜜や花粉を集めるなど、巣を維持するための仕事を分担して行っています。女王蜂は一日に千個以上の働き蜂の卵を産み、成熟した集団の働き蜂は数万匹にもなります。

彼らは蜂蜜を取るために昔から人間に飼育されてきた家畜昆虫の一つです。しかし、品種改良がほとんどされておらず、人の世話が無くても生きていけます。日本ではセイヨウミツバチとニホンミツバチの2種類が養蜂に利用されていますが、その大半が外来のセイヨウミ

ツバチを使っています。蜜をよりたくさん集めるのに加えて、古来より利用、研究され、人工巣を使ったり、女王蜂を隔離して巣を壊さずに蜜だけ集めたりするなど、効率的な養蜂技術を使えるためです。現在では蜂蜜だけではなく、花粉やロイヤルゼリー、プロポリスなどを採集したり、イチゴなどの農作物の受粉の媒介役としても活躍しています。



菜の花に止まるセイヨウミツバチ

日本で扱われる蜂蜜のほとんどが外国産で、国産の蜂蜜は高級品です。それは日本で養蜂を行う事が難しいからです。冷涼な気候のヨーロッパが原産のセイヨウミツバチには日本の夏の酷暑は厳しく、また、広い平原の少ない日本には蜜源となる辺り一面の花畑はほとんどありません。さらに、秋に襲来するスズメバチはせっかく集めた蜜だけでなく、大事に育てた幼虫までも根こそぎさらってしまいます。日本はセイヨウミツバチの働く環境としてはかなりブラックな職場なのかもしれません。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)

小さな世界 こけ

身近なコケ(3)

今回も街の公園の樹木や石垣などで観察できるコケを紹介します。

公園の大きな樹の幹には、セン類のヒナノハイゴケ、サヤゴケ、タチヒダゴケなどが着生しているのが見られます。

ヒナノハイゴケは、今の時期、口の周辺が紅色になっている蒴が見られます。このことから“口紅姫ゴケ”ともいわれます。樹の幹や石垣に着生し、乾燥しているときは、葉は茎に沿ってくっついていますが、濡れると葉が開きます。蒴は、葉先がヒゲのように伸びた苞葉に包まれています。



ヒナノハイゴケの胞子体

サヤゴケは、乾燥や大気汚染に強く、街路樹や公園でも普通に見られます。樹の幹に、ドーム状のかたまりをつけますが、古い木では全体を覆っていることがあります。葉は細長く中肋があり、胞子体の長さは3 mm、蒴は1 mmと小さいですが、たくさんの胞子体をつけるため、肉眼でも見つけやすいコケです。蒴柄を包む葉(雌苞葉)を刀の鞘に見立てたのが名前の由来です。



サヤゴケの胞子体

タチヒダゴケ(コダマゴケ)は、ヒナノハイゴケと混生していることもあります。葉は乾燥しても縮れず、茎に添います。柄は短いため、葉の間から蒴が出ているように見えます。蒴を覆った帽には縦ジワが入ります。楕円形の蒴は、熟すと先が8つに割れ、胞子を放出します。(山根)



胞子体の柄の拡大



タチヒダゴケの胞子体と拡大

研修会のご案内

- 4月10日(水)『春の写真教室』
春を写そう
※要予約(先着20名)、無料、カメラ持参
- 4月12日(金)『4月の自然探勝』
園内の春を探そう
※自由参加・無料、ルーペ持参
- 4月12日(金)『シダの学習会』
座学と園内観察
※自由参加・無料、ルーペ持参
- 4月16日(火)『山菜教室』
山菜について学び、山菜料理を試食しよう
※要予約(先着30名)、無料

10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員
宗岡 泰昭

10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：森林インストラクター
駄賀 恒男

13:00～15:00 学習室 集合
コーディネーター
駄賀 恒男

10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔

◎ 展示会

場所:学習展示館

・緑化センターの桜写真展 ～ 4月21日(日)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

・さくら祭り ～4月21日(日)

さくらクイズに答えて景品ゲット

期間中、早咲きから遅咲きのサクラ約50種類が楽しめます。

・さくら祭りお楽しみイベント (レストハウス前広場ほか)

4月7日(日) 10:00～15:00

さくらクイズラリー、木工クラフト、わなげ・ミニグラウンドゴルフ
ノルディックウォーク体験会、ネイチャーゲーム、二胡コンサート
フリーマーケット、キッチンカー、草花販売など

・第23回 みどりの集い (多目的広場ほか)

4月29日(月・祝) 10:00～15:00

アイスクリーム無料引換券配布(9:20～, 14:00～、各先着200名)
歌・クイズ、コンサート、草花寄せ植え教室、鳥のオカリナを作ろう
里山の土産、朝採り野菜と地元加工品、おもちゃ屋、キッチンカーなど



緑化センターの桜写真展



さくら祭り



みどりの集い

～ 森林公園・こんちゅう館
臨時休園のお知らせ ～

7月の西日本豪雨のため、当分の間
臨時休園します。

ご迷惑をおかけしますが、
ご理解とご協力をお願いいたします。